

## 長野県林業総合センター創立 50 周年記念行事を開催

### 1 はじめに

長野県林業総合センターは、昭和36年に林業指導所として開設されて以来、50年が経過しました。この間、長野県の林業を取り巻く社会、経済の状況は大きく変化しました。

そこで、これまでの林業総合センターの活動の内容を理解していただくために、節目ごとに研究成果を整理してみることにしました。

本稿では、過去の記念事業の内容、今回の記念事業の開催の経過などについて、整理しました。

### 2 記念事業の開催の経過

当センターでは、節目ごとに記念事業を開催してきました。

#### (1) 10周年記念事業

10周年記念事業については、資料は残っていませんが、昭和46年11月に記念誌「十年のあゆみ」が刊行されており、当時の状況をうかがうことができます。

同記念誌は、A5版で91ページの小冊子ですが、開所時の回顧及び当時の試験研究の成果が掲載されています。歴史的な資料として貴重なものとなっています。

また、同時に「カラマツに関する文献目録」が刊行されました。当時は、カラマツの造林、育林からカラマツ材の利用開発が本県の林業関係の研究の中心テーマでした。

#### (2) 30周年記念事業

その後、20周年については、特に、行事等は開催されませんでした。

30周年については、記念事業を開催した経過はありませんが、「長野県林業技術カード」を平成3年11月に編集しました。

このカードは、30年の歴史を積み重ねた研究成果の中から、普及職員等が現地で実践指導する時に役立つものを中心に130の項目を選んで、林業技術を集約したものです。B5版、261ページの加除式の冊子ですが、残念ながら、追加のカードの作成はできませんでした。

#### (3) 40周年記念事業

40周年記念事業は、平成12年7月30日に、林業

総合センターを中心に開催しました。「2000年森林を考える集い」と称し、記念式典及び記念講演のほか、森のコンサートで構成した事業です。

セイコーエプソン(株)取締役の橋爪地球環境室長を講師にお迎えし、「新技術開発と環境への取り組み」と題して記念講演を行いました。

また、各部の業務の内容につきましては、業務報告会として表-1のとおり開催しました。

表-1 業務報告会

年月日	部名	テーマ
12. 9. 11	育林部	森林の育成
12. 9. 20	特産部	特用林産と森の活用
12. 10. 26	木材部	木材利用の新技術
12. 11. 11	指導部	森林学習の推進

また、40周年記念誌「未来への森林づくり」を発行し、関係機関に配布しました。

### 3 50周年記念事業の開催の準備

50周年記念事業の開催準備は、その1年前から開始しました。

#### (1) 林業総合センター50周年記念事業準備検討会の開催

平成21年4月に、同準備検討会をセンター職員の中から組織し、検討を始めました。

#### (2) 林業総合センター50周年記念事業実行委員会の設置

平成21年9月8日に、実行委員会を組織しました。所長を実行委員長とし、県林務部の各課室長を構成員に加え、県の事業として実施する体制を整えました。

#### (3) 林業総合センター創立50周年記念事業事務局 実行委員会の設置

県的な組織である実行委員会とは別に、センター内に事務局実行委員会を組織しました。事務局実行委員会は、実質的な開催の実行組織であり、以後、十数回開催しました。

#### (4) 開催経費

開催経費は、通常のセンター予算の中から捻出することしました。また、不足する分については、次の林業関係の2団体から後援をいただくとともに

に、助成をいただきました。

- ・ 長野県林業団体協議会
- ・ 森林フォーラム実行委員会

助成をいただきました2団体には、改めて御礼申し上げます。

#### 4 長野県林業総合センター創立50周年記念事業の開催

平成21年7月22日に塩尻市「レザンホール」において、記念事業を開催しました。

当日は、梅雨明けの晴天の中、県内各地から林業関係者など多くの皆さんにご参加をいただき、厳粛かつ盛大に開催することができました。

記念行事の内容は、記念式典、記念講演、パネル展示の3部構成としました。

##### (1) 経過報告

記念式典では、林業総合センターの経過報告として表-2の「50年のあゆみ」を橋爪所長から説明しました。

表-2 50年のあゆみ

年 月	内 容
明治40年4月	県有林の苗木養成と一般への模範展示のため、塩尻市宗賀に9haの苗畑を設置
昭和29年8月	製材技術の向上に寄与するため、辰野町に長野県目立技術者養成所を設置
昭和35年4月	林業指導所設立準備事務局を設置
昭和36年4月	林業指導所が発足、目立技術者養成所は付置機関 庶務部、教育指導部、業務部、育種部、木材部及び付属目立技術者養成所で組織し、職員26名を配置
昭和36年5月	本館完成
昭和36年5月	開庁式を挙げる
昭和36年10月	開所披露を兼ねて竣工式を挙げる
昭和39年5月	第15回全国植樹祭の開催に合わせ、天皇、皇后両陛下が当所へ行幸された。その時、天皇陛下はカラマツの、皇后陛下はアカマツの種を蒔かれた。
昭和40年3月	付属目立技術者養成所を廃止 高遠町に付属林業機械化指導所を設置、木材部を同所に設置
昭和40年5月	付属林業機械化指導所開所式を挙げる
昭和41年3月	両陛下お手蒔きの苗木を県下各学校、公共施設に配布した。
昭和41年4月	これまでの育種部、業務部、木材部を、それぞれ造林部、経営部、林産部に改め、林産部は当所へ移設
昭和43年3月	構内の県営苗畑のうち3.11haを塩尻市に譲渡
昭和46年3月	環境緑化見本園を整備
昭和49年4月	付属林業機械化指導所を廃止
昭和63年3月	新施設建設に伴い塩尻市片丘に移転
昭和63年4月	長野県林業総合センターと改称 管理部、指導部、育林部、特産部、木材部を設置
平成11年8月	「体験学習の森」オープン

##### (2) 謝状の贈呈

林業総合センターの運営に多大なご協力をいただいた3名と4団体に感謝状を贈呈しました。

表彰を受けられた皆様には、改めて感謝申し上げますとともに、一層のご活躍を御祈念申し上げます。

表-3 感謝状贈呈者

氏名(名称)	主な功績など
菅原 聡 氏	信州大学名誉教授 長年にわたり林業総合センターの外部評価委員として林業総合センターの発展にご尽力いただいた。
北信木材生産センター協同組合	高性能林業機械を利用した間伐材搬出システムの普及に当たり、協力とアドバイスをいただいた。
社団法人 長野県農村工業研究所	きのご遺伝資源収集やきのご新品目の開発に当たり、共同研究を進めるとともに多くのアドバイスをいただいた。
豊丘村	長年にわたりマツタケ山を試験地として提供していただき、長野県のマツタケ増産技術の開発と普及のためにご協力いただいた。
雨沢耕地共有林	長年にわたりマツタケ山を試験地として提供していただき、長野県のマツタケ増産技術の開発と普及のためにご協力いただいた。
三村 典彦 氏	元長野県信州からまつ工業会専務理事 長野県産のカラマツ材の利用のため、協力とアドバイスをいただいた。
徳本 守彦 氏	信州大学名誉教授 長年にわたり県産材利用のため協力して研究を進めるとともに、多くのアドバイスをいただいた。



写真-1 感謝状の贈呈

##### (3) パネル展示

レザンホールの地下のギャラリーにおいて、パネル展示を行いました。展示は、各部ごとに行うこととし、過去に使用した機械や用具のほか、林業指導所時代に作成した指針書なども展示して、

50年の時の流れを実感していただけるよう工夫しました。

(指導部)

林業機械の解説や学習展示館の開催行事の内容をパネルで展示したほか、過去からの研究報告などを研究成果として展示しました。

(育林部)

クマスギや三郷スギを紹介したほか、山火事跡地の復旧の状況や複層林施業などの最新の研究成果をパネルにまとめて展示しました。また、過去から現在までの測高器を展示するとともに、マツノマダラカミキリ・スギノアカネトラカミキリ・カシノナガキクイムシを対象とした3種類の誘引器も紹介しました。

(特産部)

最近の研究成果の中から、里山を活用したきのこ栽培、マツタケの増産、きのこ新品目の開発、山菜の増殖などに関するパネルを展示しました。同時に、関係する指針書、パンフレット、マニュアル書や栽培されたヤマブシタケ、わりばし種菌の実物も置いて、手にとって見ていただきました。

(木材部)

カラマツ材の利用開発を中心に、小径材から中径材、大径材への利用の変遷をその時の社会情勢を背景に展示説明をしました。また、当センターが中心に開発した接着重ね梁の実物を展示し、カ



写真-2 パネル展示

ラマツのすばらしさを強調しました。

(4) 記念講演

名古屋大学名誉教授の只木良也氏から、「50年を振り返り将来に向かってー『木材か環境か』より『木材も環境も』へー」と題し、講演をしていただきました。

記念講演の内容につきましては、総合センターのホームページ等で紹介しています。

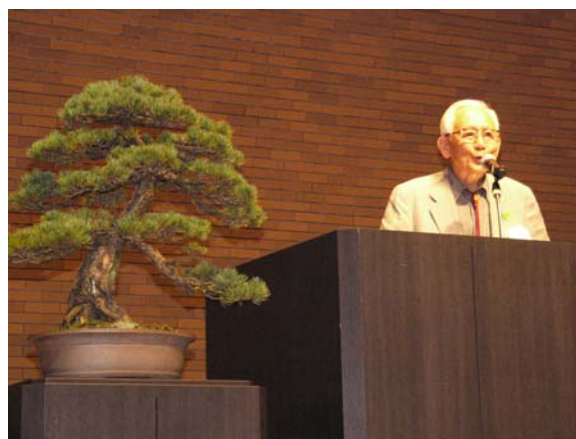


写真 - 3 記念講演

(5) 記念誌の発行

A 4版138ページの「長野県林業センター50周年記念誌」を発行し、関係機関に配布しました。

5 おわりに

足掛け2年の準備期間を経て、50周年記念事業を開催しました。

この間、センターの通常の業務を行いながらの準備であり、特に事務局実行委員の皆様には多大な協力をいただきました。

今後も、関係者の皆様のご理解とご協力を賜りながら、森林、林業の試験研究から指導普及までセンター業務をしっかりと行なっていく所存です。

(指導部 佐藤公男)